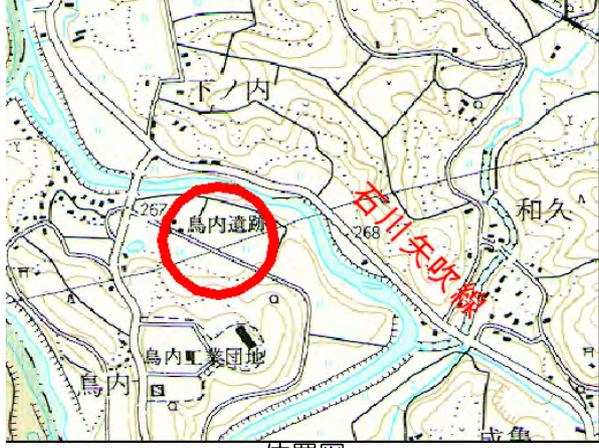


石川町資源調査調書

| | | | | | |
|---|---|------------------------|--|----|---------|
| 通し番号 | 50 | 整理番号 | 5 - 001 | 作成 | 平成19年1月 |
| 名称 | トウチイセキ 鳥内遺跡 | | 項目 | 史跡 | |
| 管理 | 住所 | 石川町大字新屋敷字耕土71外 | | | |
| | 連絡先 | 文化振興係 TEL 0247-26-9137 | | | |
| | 管理者及び所有者 | 野内定一郎 外 | | | |
| 概要 | <p>縄文時代から弥生時代にかけての遺跡であり、特に、弥生時代中期の再葬墓（遺体を一旦骨にしてその後土器の仲に再び葬ること）を多く出土した遺跡として全国的にも有名である。</p> <p>また、東海地方の水神平式土器、九州地方の遠賀川系土器が出土しているが、これらは直接運ばれたものと考えられている。したがって、弥生文化（稲作文化）北上の様子が鳥内遺跡から知ることが出来る。さらに、全国から40点程度しか出土していない人面付土器が1点出土していることは注目される。</p> <p>鳥内遺跡は、東日本に限らず、弥生時代前半の研究を行う上で、非常に重要な情報を提供してくれる遺跡といっても過言ではないだろう。</p> <p>昭和53年4月7日 県指定史跡に指定</p> | | | | |
| 参考文献 | ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財（石川町教育委員会） 石川町史 第6巻 | | | | |
| 関連項目 | | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 写真及び位置図等 | | | | | |
|  | | |  | | |
| <p>出土状況</p> <p>1970年（昭和45年）に発掘された鳥内遺跡は、現在畑地として地下に眠っています。</p> | | | <p>位置図</p> | | |

石川町資源調査調書

| | | | | | |
|--|---|------------------------|---|----|---------|
| 通し番号 | 51 | 整理番号 | 5 - 002 | 作成 | 平成19年2月 |
| 名称 | マドノフンケン 悪戸古墳群 | | 項目 | 史跡 | |
| 管理 | 住所 | 石川町大字中野字悪戸204-1外 | | | |
| | 連絡先 | 文化振興係 TEL 0247-26-9137 | | | |
| | 管理者及び所有者 | 佐藤康雄 外2名 | | | |
| 概要 | <p>阿武隈川の東岸200メートルの丘陵上に分布する古墳群である。</p> <p>以前は11基からなっていたが、三基は消滅し、1基は道路工事により半分破壊されたため、完全な形態をとどめているものは7基のみである。それらは直径約15メートルから18メートル前後、高さは1.5メートルから3メートルで、中には周溝が確認できるものや、石室が一部露出したものもある。</p> <p>出土遺物は鉄鏃、刀子、鏝、責金具などの鉄製品が大部分を占め、ほかには縄文土器片、土師器片が出土した。これらから実年代を導き出すことは困難だが、袖無型の形態は初期の横穴式石室と見られることから、7世紀初頭の年代が比定されている。</p> <p>昭和55年3月28日 県指定史跡に指定</p> | | | | |
| 参考文献 | ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財（石川町教育委員会） 石川町史 第6巻 | | | | |
| 関連項目 | | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 写真及び位置図等 | | | | | |
|  <p>1号墳</p> | | |  <p>位置図</p> | | |

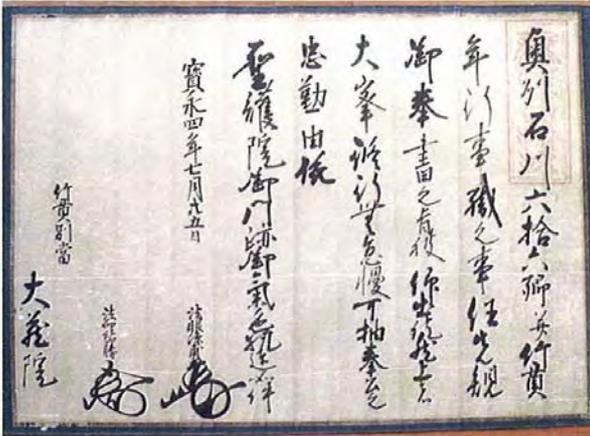
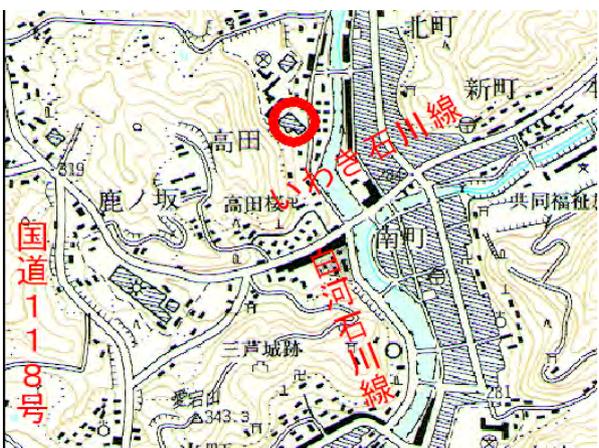
石川町資源調査調書

| | | | | | | | |
|---|--|------------------------|---|--|-----|----|---------|
| 通し番号 | 52 | 整理番号 | 5 | - | 003 | 作成 | 平成19年2月 |
| 名称 | オオタニヨフンケン 大壇古墳群 | | | | 項目 | 史跡 | |
| 管理 | 住所 | 石川町大字新屋敷字焼場・田上 | | | | | |
| | 連絡先 | 文化振興係 TEL 0247-26-9137 | | | | | |
| | 管理者及び所有者 | 坂本修平 外 | | | | | |
| 概要 | <p>阿武隈川の東側750メートル、社川の西2キロ上位河岸段丘上に占地している。</p> <p>平成4年に測量及び発掘調査が行われ、6世紀初頭から7世紀にかけて築造された、前方後円墳2基と円墳7基からなる古墳群であることが判明した。中でも1号墳は、主軸長39.0メートル、前方部幅22.4メートル、後円部径24.8メートル、高さは前方部3.3メートル、後円部24.8メートルで、石川地方で最大規模を誇る前方後円墳である。また書壇の北西側には8基の群が築造されており、2墳が前方後円墳であるほかは、すべて円墳で、北西側に行くに時代が新しいものと考えられている。</p> <p>3号墳、8号墳については横穴式石室内の調査を行ったものの、出土遺物はなかった。</p> <p>また、全体の調査を通して縄文土器、土師器杯、ロクロ成形土師器甑、赤焼土器が出土したのみで、埴輪や副葬品類は発見されなかった。なお、1号墳の墳丘盛土内からは、土師器及び石英塊が人為的に埋置された痕跡がうかがえたことにより、古墳築造過程の祭祀との関連指摘されている。</p> <p>昭和46年4月13日 県指定史跡に指定</p> | | | | | | |
| 参考文献 | ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財（石川町教育委員会） 石川町史 第6巻 | | | | | | |
| 関連項目 | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 写真及び位置図等 | | | | | | | |
|  | | | |  | | | |
| 全景 | | | | 位置図 | | | |

石川町資源調査調書

| | | | | | |
|---|--|------------------------|--|----|---------|
| 通し番号 | 53 | 整理番号 | 5 - 004 | 作成 | 平成19年2月 |
| 名称 | マガキセキソウトウバケン 曲木石造塔婆群 | | 項目 | 史跡 | |
| 管理 | 住所 | 石川町大字曲木字坂ノ下81-2 | | | |
| | 連絡先 | 文化振興係 TEL 0247-26-9137 | | | |
| | 管理者及び所有者 | 光国寺 | | | |
| 概要 | <p>本塔婆群は字坂ノ下の共同墓地にあり、14基で構成されている。</p> <p>石造塔婆は、一般的に「板碑」とも呼ばれ、鎌倉に武家政権が樹立されてから関東地方に新しい造塔供養観が育ち、石造塔婆が発生して全国的に流行したといわれている。造立の目的は死者への追善供養だが、中には生前に後生を願う(逆修)ために造立されたものもある。本塔婆群中のものはすべて、頭部が三角状をなし、その下部には二条の切込線が正面と左右に彫り込まれ、切込線の下部は平滑に磨き出され、ここで一段と彫り下げられ、大きく平な部分を作り出し、仏を表す種子(梵字)が彫られてる。</p> <p>この曲木石造塔婆群は紀年銘、趣旨、願文など、豊富な銘文があり石川町の中世史解明に、欠くことのできない貴重なものである。</p> <p>平成8年6月1日 町指定文化財に指定</p> | | | | |
| 参考文献 | ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻 | | | | |
| 関連項目 | 光国寺(3-005) | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 写真及び位置図等 | | | | | |
|  | | |  | | |
| 塔婆 | | | 位置図 | | |

石川町資源調査調書

| | | | | | |
|---|---|------------------------|--|----|---------|
| 通し番号 | 54 | 整理番号 | 5 - 005 | 作成 | 平成19年2月 |
| 名称 | 石川大蔵院文書 | | 項目 | 史跡 | |
| 管理 | 住所 | 石川町字高田200-2 歴史民俗資料館 | | | |
| | 連絡先 | 文化振興係 TEL 0247-26-9137 | | | |
| | 管理者及び所有者 | 石川静子 | | | |
| 概要 | <p>石川大蔵院は元禄年間まで八大院と称し、六郷の熊野参詣先達職及び年行事職を保持して幕末に至った修験であり、石川町字北町に屋敷があった。この文書は、八大院をへて大蔵院に伝来した文書である。</p> <p>本文書は上記の1から9までと、10から14までがそれぞれ1巻に仕立てられている。この2巻を収める文書箱の箱書きにより、文政13年(1830年)に3巻に表装されたことがわかる。また、明治22年(1889年)文科大学が調査した時点では三巻が伝存していた。失われた一巻には、応安3年(1370年)7月27日の沙弥某先達職安堵状以下6通が収められていたものと見られている。現在、東京大学史料編纂所の影写本には、「石川頼賢蔵本」として上記のうち7・8・12・13・14と「他」を除いた9通に、失われた6通を加えた15通が架蔵されている。したがって、全三巻には「他」を除いて20通が収められていたことになる。1巻を欠くとはいえ、八大院目大蔵院に伝来したこれらの文書は、中世石川荘及び近世石川郡と東白川郡の一部(現古殿町)にわたり宗教上の権威を保った修験の状態を示す貴重な資料である。</p> <p>平成7年3月31日 県指定重要文化財に指定</p> | | | | |
| 参考文献 | ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻 | | | | |
| 関連項目 | 歴史民俗資料館(11-001) | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 写真及び位置図等 | | | | | |
|  | | |  | | |
| 石川大蔵院文書 | | | 位置図 | | |